

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT2601		
科目名	危機管理基礎演習 I		
担当教員	山下 博之		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	月 3		
講義室	1312	単位区分	必
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E 〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる論理知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 1－H 〔論理的思考力・批判的思考力〕 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 D P 4－F 〔探求力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 4－I 〔理解力・分析力〕 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 D P 6－K 〔表現力・対話力〕 文章口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E 1 学識と専門技能（10%） H 2 批判的思考（10%） F 1 探求と論拠（25%） I 1 理解・分析と読解（20%） I 3 情報分析（15%） K 1 ライティング・コミュニケーション（10%） K 2 オーラル・コミュニケーション（10%）		
教員の実務経験	2009年から2015年にかけて消防庁所管のシンクタンクの研究員として、国、地方自治体の防災政策及び消防政策に関する調査、研究業務に従事してきました。2018年度には、消防庁の「国民保護に関する懇話会」の委員を務めました。また、2019年度は栃木県中小企業団体中央会による「災害時応援協定締結支援事業」（栃木県委託事業）の講師・アドバイザー役として、各種中小企業の災害時応援協定及びBCPの取り組みを支援してきました。これらの業務を通じて得られた実務上の知見や経験を活かし、本講義を展開していきます（第1回～第15回）。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット区分：能力開発の目標ステージとの対応 2 進行情 3 発展期		
科目概要・キーワード	危機管理の研究領域の中から、学生個人がそれぞれ1つの研究テーマを構築するのに必要なスキルと知識を統合的に学ぶために、危機管理に関する基礎的な演習を行う。危機管理学の専門基幹科目における法学系科目、又は、専門展開科目における災害マネジメント、パブリックセキュリティ、グローバルセキュリティ若しくは情報セキュリティに属する危機管理系科目を担当する教員が「個別クラス」を担当し、教員の研究領域の特性に即して研究手法等を指導し		

	ます。3年次以降のゼミナールにおける、より専門的な研究活動への橋渡しの意味をもつ。本科目では、研究のテーマ決定や研究計画の検討からはじめて、研究を進め、その成果をプレゼンテーションによって表現することまでを行います。授業形態は、演習形式により行います。 授業形態は、演習形式により行います。なお、授業の一部を補完するため、あるいは代替するためにオンライン授業（ライブ型）取り入れる場合があります。 ■キーワード 危機管理、研究テーマの構築、ゼミナールへの橋渡し	
授業の趣旨	■副題 「防災」を通じて、研究のルールと方法、レジュメやレポートの書き方、プレゼンの仕方を学びましょう ■授業の目的 本授業では、防災や公共政策に関する研究テーマの探求、研究手法の会得、研究成果の発表の各過程を通じて、①探求力・課題解決力、②学識・専門技能、③論理的思考力・批判的思考力、④理解力・分析力、⑤表現力・対話力の各コンピテンスの開発を行うことを目的とします。 ■授業のポイント 将来のキャリアを見据えた学びにおいて、⑥自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢、⑦倫理観と公共心、⑧省察力の各観点について自覚を持つことも望まれます。また、担当教員は、探求しようとしている物事を実際に見たり感じることが、物事を探求する上で重要なことだと考えています。そうしたことを確認するための実地調査（フィールドワーク）を行います。	
総合到達目標	■旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える諸科学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析し、又は論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を適切に表現することができる。 ・テーマ設定から研究成果の発表に至るまでの研究プロセスを説明することができる（第2回～第4回）。 ・防災上の問題について考察し、自らの意見を記述することができる（第5回～第7回） ・自らの問題意識を研究の問いとして説明することができる（第8回・第9回）。 ・研究の問いに対する仮説を提示することができる（第8回・第9回）。 ・仮説の検証方法を自ら検討し、提示することができる（第10回～第13回）。 ・提示した方法に従って自ら仮説を検証することができる（第14回～第15回）。 ■授業を通じて他者とコミュニケーションをとることができる。 ・文献を要約し発表するためのレジュメを作成することができる（第2回～第4回） ・基本的な文章執筆のルールに従いレポートを作成することができる（第5回～第7回） ・読みやすさ、見やすさを意識しながら発表用の資料を作成することができる（第2回～第4回） ・発表の際、聞き手の反応を意識しながら発表することができる（第2回～第15回） ・発表に対する自分なりの意見や質問を述べるることができる（第2回～第15回）。	
成績評価方法	■レジュメ・パワーポイントの作成・発表 3回（35%）：適用ルーブリックE1、H2、F1、I1、I3、K1、K2 （評価の観点）報告すべきこと（文献の内容、自分の研究内容等）についてのポイントが押さえられたレジュメ・パワポかどうか、分かりやすいレジュメ・パワポかどうか、聞き手が理解できるよう報告できているかどうか等について評価します。 （フィードバック方法）必ず発表してもらい、発表時にその都度、ポイントを押さえられているかどうか、レジュメ・パワポ内容または口頭による説明の分かりやすさ等についての評価を行い、アドバイスします。 ■レポートの作成・提出 2回（35%）：適用ルーブリックE1、H2、F1、I1、I3、K1、K2 （評価の観点）自ら設定した問いの適切さ、レポート内で展開する議論の論点及び議論の軸の明確さ、論理の矛盾や飛躍の有無、議論の客観性及び裏付けとなる根拠の有無、議論の客観性及び根拠を確保する上で十分な文献・資及・データ等の収集・読解の可否等について評価します。 （フィードバック方法）必ず発表してもらい、発表時にその都度、議論の論点及び議論の軸の明確さ、論理の矛盾や飛躍の有無、議論の客観性及び裏付けとなる根拠の有無、議論の客観性及び根拠を確保する上で十分な文献・資及・データ等の収集・読解の可否等についての評価を行い、アドバイスします。 ■授業参加度 15回（30%）：適用ルーブリックE1、H2、F1、I1、I3、K1、K2 （評価の観点）上記のレジュメ・パワポ・レポート等の報告者が行った報告について自分なりに考察し、意見及び疑問を提示しているかどうか等について評価します。	
履修条件	特になし	
履修上の注意点	・報告や議論に積極的に参加してください。	
授業内容	回	内容

1	① 授業テーマ ガイダンス ② 授業概要 ・本演習の目標や各授業の内容、スケジュール、学習方法や参考資料等について説明する（E1）。 ・本演習の受講生が本演習の全体像を把握し、自ら授業の準備を行えるようにする。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（60分） 本演習についてシラバスを通読しておく。 ④ 復習（180分） シラバスをもとに、本演習についての自分の学習計画を立てる。
2	① 授業テーマ 政策研究の基礎を学ぶ（1）－ 政策研究の意義・プロセスとリサーチエスチョン － ② 授業概要 ・防災・減災政策等の国や自治体等の実施している政策の研究方法を学ぶ意義を理解し、説明できるようにする（E1） ・研究プロセスにおける「リサーチエスチョン」の意味と重要性を理解した上で、自らの研究のリサーチエスチョンを設定できるようにする（H2、F1、I1、I3）。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（120分） ・テキスト『政策リサーチ入門－仮説検証による問題解決の技法』p.1-p.32を読んでおく※ ※担当者を指定し、上記テキスト第1章のレジメを作成してもらう。 ④ 復習（120分） ・テキスト『政策リサーチ入門－仮説検証による問題解決の技法』p.1-p.32を再読しながら、配布されたレジメを補足する。 ・自分の関心のある社会問題を研究するためのリサーチエスチョンがどのような問いになるかを考え、リストアップしておく（RQリスト）。
3	① 授業テーマ 政策研究の基礎を学ぶ（2）－ 仮説と資料・データ収集 － ② 授業概要 ・研究プロセスにおける「仮説」の意味と重要性、仮説の立て方を理解した上で、自らの研究の仮説を設定できるようにする（E1）。 ・研究プロセスにおける資料・データ収集の意味と重要性、収集方法を理解した上で、自らの研究に関わる資料・データ収集を行えるようにする（H2、F1、I1、I3）。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（120分） ・テキスト『政策リサーチ入門－仮説検証による問題解決の技法』p.33-p.96を読んでおく※ ※担当者を指定し、上記テキスト第2章及び第3章のレジメを作成してもらう。 ④ 復習（120分） ・テキスト『政策リサーチ入門－仮説検証による問題解決の技法』p.33-p.96を再読しながら、配布されたレジメを補足する。 ・テキスト『政策リサーチ入門－仮説検証による問題解決の技法』p.192-p.202の演習例1を読む。 ・上記RQリストに挙げたリサーチエスチョンを研究するための仮説を設定する。 ・上記仮説を検証する上で必要な資料・データ及びその収集方法をリストアップし、実際に収集する。 ・収集した資料・データを読み、得られた情報をメモ等に整理する。
4	① 授業テーマ 政策研究の基礎を学ぶ（3）－ 仮説の検証と研究結果のまとめ方 － ② 授業概要 ・研究プロセスにおける仮説の検証方法を理解した上で、自らの研究の仮説を検証することができるようにする（E1）。 ・自らの研究プロセスと研究によって得られた知見をレポートや論文にまとめ、あるいはPPT等を使って口頭で発表できるようにする（H2、F1、I1、I3）。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（120分） ・テキスト『政策リサーチ入門－仮説検証による問題解決の技法』p.97-p.158を読んでおく※。 ※担当者を指定し、上記テキスト第4章及び第5章のレジメを作成してもらう。 ④ 復習（120分）

	・テキスト『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』p.97-p.158を再読しながら、配布されたレジュメを補足する。 ・上記RQリストで挙げた仮説に対する検証方法を資料・データを使うとどのような方法で検証することができるか検証方法を考え、ノートに整理する。 ・テキスト『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』p.203-p.220の演習例2及び演習例3を読む。
5	① 授業テーマ 防災・減災政策の課題を知る（1） ② 授業概要 ・災害発生時の応急対応または災害に対する平常時の備えに関し、国や自治体が直面する課題についての理解と関心を深め、自らの研究のリサーチクエストを設定できるようにする（E1、H2、F1、I1、I3）。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（120分） ・テキスト『熊本地震 連鎖の衝撃』p.10-85を読んでおく※。 ※担当者を指定し、上記テキストp.10-85（生命編、医療・福祉・教育編、建物編、避難編）に関するレポートを分担で作成してもらう。 ④ 復習（120分） ・テキスト『熊本地震 連鎖の衝撃』p.10-85を再読しながら、配布されたレジュメを補足する。 ・災害発生時に国や自治体が直面する課題についてのリサーチクエストと仮説を検討する。
6	① 授業テーマ 防災・減災政策の課題を知る（2） ② 授業概要 ・災害発生時の応急対応または災害に対する平常時の備えに関し、国や自治体が直面する課題についての理解と関心を深め、自らの研究のリサーチクエストを設定できるようにする（E1、H2、F1、I1、I3）。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（120分） ・テキスト『熊本地震 連鎖の衝撃』p.86-155を読んでおく※。 ※担当者を指定し、上記テキストp.86-155（ライフライン編、行政編、経済編）に関するレポートを分担で作成してもらう。 ④ 復習（120分） ・テキスト『熊本地震 連鎖の衝撃』p.86-155を再読しながら、配布されたレジュメを補足する。 ・災害発生時に国や自治体が直面する課題についてのリサーチクエストと仮説を検討する。
7	① 授業テーマ 防災・減災政策の課題を知る（3） ② 授業概要 ・災害発生時の応急対応または災害に対する平常時の備えに関し、国や自治体が直面する課題についての理解と関心を深め、自らの研究のリサーチクエストを設定できるようにする（E1、H2、F1、I1、I3）。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（120分） ・テキスト『熊本地震 連鎖の衝撃』p.156-195を読んでおく※。 ※担当者を指定し、上記テキストp.156-195（文化財編、スポーツ編、メディア編）に関するレポートを分担で作成してもらう。 ④ 復習（120分） ・テキスト『熊本地震 連鎖の衝撃』p.156-195を再読しながら、配布されたレジュメを補足する。 ・災害発生時に国や自治体が直面する課題についてのリサーチクエストと仮説を検討する。
8	① 授業テーマ ミニ研究（1）：リサーチクエストを設定する ① ② 授業概要 ・災害発生時の応急対応または災害に対する平常時の備えの取り組みの中で国や自治体、企業、住民などが直面する課題に関し、自分が研究を通じて明らかにしたいこと、明らかにしたい理由・意義を考え、それをリサーチクエスト（研究の問い）として表現する（E1、H2、F1、I1、I3）。 ・自らの研究のリサーチクエスト、研究の意義をまとめた資料をもとに教員や他の履修者と議論し、リサーチクエストと研究の意義について深掘りする（K1、K2）。

	・本授業により、履修者は社会問題に対する単なる関心を、リサーチクエストという研究の問いとして表現し、それをその後の研究計画作りや文献収集、調査、分析の作業の基礎として利用することができるようになる。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習 (120分) ・災害発生時の応急対応または災害に対する平常時の備えの取り組みの中で国や自治体、企業、住民などが直面する課題に関し、自分が研究を通じて明らかにしたいこと、明らかにしたい理由・意義について、レジュメにまとめてくる。 ④ 復習 (120分) ・自らのリサーチクエスト (自分が研究を通じて明らかにしたいこと、明らかにしたい理由・意義) について、教員や他の履修者から受けた指摘をレジュメに補足し、そうした指摘を踏まえてリサーチクエストを修正する。
9	① 授業テーマ ミニ研究 (2) : リサーチクエストを設定する ② ② 授業概要 ・災害発生時の応急対応または災害に対する平常時の備えの取り組みの中で国や自治体、企業、住民などが直面する課題に関し、自分が研究を通じて明らかにしたいこと、明らかにしたい理由・意義を考え、それをリサーチクエスト (研究の問い) として表現する (E1、H2、F1、I1、I3)。 ・自らの研究のリサーチクエスト、研究の意義をまとめた資料をもとに教員や他の履修者と議論し、リサーチクエストと研究の意義について深掘りする (K1、K2)。 ・本授業により、履修者は社会問題に対する単なる関心を、リサーチクエストという研究の問いとして表現し、それをその後の研究計画作りや文献収集、調査、分析の作業の基礎として利用することができるようになる。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習 (120分) ・災害発生時の応急対応または災害に対する平常時の備えの取り組みの中で国や自治体、企業、住民などが直面する課題に関し、自分が研究を通じて明らかにしたいこと、明らかにしたい理由・意義について、レジュメにまとめてくる。 ④ 復習 (120分) ・自らのリサーチクエスト (自分が研究を通じて明らかにしたいこと、明らかにしたい理由・意義) について、教員や他の履修者から受けた指摘をレジュメに補足し、そうした指摘を踏まえてリサーチクエストを修正する。
10	① 授業テーマ ミニ研究 (3) : 研究計画を作成する ① ② 授業概要 ・自ら設定したリサーチクエストに対する仮説を設定し、仮説を検証するための方法や検証の手順、スケジュール等を研究計画書としてまとめる (E1、H2、F1、I1、I3)。 ・それをもとに教員や他の履修者と議論し、研究計画の内容について深掘りする (K1、K2)。 ・本授業により、履修者はリサーチクエストに解答を導き出すために必要とする資料、データの種類や具体的な名称、そうした情報やデータの収集方法や分析方法、スケジュール等を自ら検討し、それを研究計画書として整理し、発表することができるようになる。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習 (120分) 自ら設定したリサーチクエストに対する仮説を設定し、仮説を検証するための方法や検証の手順、スケジュール等を研究計画書としてまとめる。 ④ 復習 (120分) 自らが作成した研究計画書について、教員や他の履修者から受けた指摘を研究計画書に補足し、そうした指摘を踏まえて研究計画書を修正する。
11	① 授業テーマ ミニ研究 (4) : 研究計画を作成する ② ② 授業概要 ・自ら設定したリサーチクエストに対する仮説を設定し、仮説を検証するための方法や検証の手順、スケジュール等を研究計画書としてまとめる (E1、H2、F1、I1、I3)。 ・それをもとに教員や他の履修者と議論し、研究計画の内容について深掘りする (K1、K2)。 ・本授業により、履修者はリサーチクエストに解答を導き出すために必要とする資料、データの種類や具体的な名称、そうした情報やデータの収集方法や分析方法、スケジュール等を自ら検討し、それを研究計画書として整理し、発表することができるようになる。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習 (120分)

	自ら設定したリサーチクエストンに対する仮説を設定し、仮説を検証するための方法や検証の手順、スケジュール等を研究計画書としてまとめる。 ④ 復習 (120分) 自らが作成した研究計画書について、教員や他の履修者から受けた指摘を研究計画書に補足し、そうした指摘を踏まえて研究計画書を修正する。
12	① 授業テーマ ミニ研究 (5) : 研究計画を作成する ③ ② 授業概要 ・自ら設定したリサーチクエストンに対する仮説を設定し、仮説を検証するための方法や検証の手順、スケジュール等を研究計画書としてまとめる (E1、H2、F1、I1、I3)。 ・それをもとに教員や他の履修者と議論し、研究計画の内容について深掘りする (K1、K2)。 ・本授業により、履修者はリサーチクエストンに解答を導き出すために必要とする資料、データの種類や具体的な名称、そうした情報やデータの収集方法や分析方法、スケジュール等を自ら検討し、それを研究計画書として整理し、発表することができるようになる。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習 (120分) 自ら設定したリサーチクエストンに対する仮説を設定し、仮説を検証するための方法や検証の手順、スケジュール等を研究計画書としてまとめる。 ④ 復習 (120分) 自らが作成した研究計画書について、教
13	① 授業テーマ ミニ研究 (6) : 研究の結果・途中経過を口頭発表する ① ② 授業概要 ・自らの研究計画をもとに、調査、分析を行い、リサーチクエストンに対する仮説を検証するという一連の研究の経過と研究の成果について、パワーポイントを使って発表する (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2)。 ・本授業により、履修者は自らの研究の途中経過や研究の結果のポイントをパワーポイントなどの資料にまとめ、これをもとに口頭で報告することができるようになる。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習 (120分) 研究計画をもとに調査、分析を行い、リサーチクエストンに対する仮説を検証するという一連の研究の経過と研究の成果について、パワーポイントにまとめる。 ④ 復習 (120分) 研究の経過や結果について教員や他の履修者から受けた指摘を踏まえ、自分の研究をレポートにまとめる。
14	① 授業テーマ ミニ研究 (7) : 研究の結果・途中経過を口頭発表する ② ② 授業概要 ・自らの研究計画をもとに、調査、分析を行い、リサーチクエストンに対する仮説を検証するという一連の研究の経過と研究の成果について、パワーポイントを使って発表する (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2)。 ・本授業により、履修者は自らの研究の途中経過や研究の結果のポイントをパワーポイントなどの資料にまとめ、これをもとに口頭で報告することができるようになる。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習 (120分) 研究計画をもとに調査、分析を行い、リサーチクエストンに対する仮説を検証するという一連の研究の経過と研究の成果について、パワーポイントにまとめる。 ④ 復習 (120分) 研究の経過や結果について教員や他の履修者から受けた指摘を踏まえ、自分の研究をレポートにまとめる。
15	① 授業テーマ ミニ研究 (8) : 研究の結果・途中経過を口頭発表する ③ ② 授業概要 ・自らの研究計画をもとに、調査、分析を行い、リサーチクエストンに対する仮説を検証するという一連の研究の経過と研究の成果について、パワーポイントを使って発表する (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2)。 ・本授業により、履修者は自らの研究の途中経過や研究の結果のポイントをパワーポイントなどの資料にまとめ、これをもとに口頭で報告することができるようになる。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習 (120分) 研究計画をもとに調査、分析を行い、リサーチクエストンに対する仮説を検証する

	という一連の研究の経過と研究の成果について、パワーポイントにまとめる。 ④ 復習（120分） 研究の経過や結果について教員や他の履修者から受けた指摘を踏まえ、自分の研究をレポートにまとめる。
関連科目	■基礎教育科目 自主創造の基礎1・2（RMGT1215・RMGT1216） ■演習・ゼミナール等 危機管理基礎演習Ⅱ（RMGT2602）、ゼミナールⅠ～Ⅳ（RMGT4601～4604）、危機管理特殊研究1～4（RMGT4611～4614） ■総合科目 政治学1（RMGT1139）、政治学2（RMGT1140）、社会学1（RMGT1133）、社会学2（RMGT1134）、経済学1（RMGT1137）、経済学2（RMGT1138） ■専門基幹科目 行政法と行政過程Ⅰ（RMGT2321）、行政法と行政過程Ⅱ（RMGT2322）、地方自治と法（RMGT2361） ■専門展開科目（共通領域科目） 財政学（RMGT3305）、 ■専門展開科目（災害マネジメント領域） 災害と法（RMGT3401）、災害対策論（RMGT3501）、災害情報論（RMGT3502）、自然災害論（RMGT3503）、大規模事故論（RMGT3504）、地域防災論（RMGT3505）、災害史（RMGT3506）
教科書	■伊藤 修一郎、2011年『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会。 ■熊本日日新聞社編集局 編、2016年『熊本地震 連鎖の衝撃』熊本日日新聞社。
参考書・参考URL	■苅谷 剛彦、2002年『知的複眼思考法 誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社。 ■久米 郁男、2013年『原因を推論する -- 政治分析方法論のすゝめ』有斐閣。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 木曜4限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室またはZoom等で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント70%：パブリックセキュリティ10%：グローバルセキュリティ10%：情報セキュリティ10% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学70%：法学30%

